

安倍雇用改革の歴史的文脈 —なぜ雇用改革か？どうすべきか？

2014.11.15 社会ユニオニズム研究会 田端博邦

はじめに

問題関心： 安倍雇用改革とそれに反対する運動の意味を、長期的な歴史的な文脈において、またグローバルな視野から理解すること。

問題設定の理由： 雇用改革は、社会と経済の根本的なあり方に関連する構造的な問題であること。それはまた、日本の経済社会に関連するだけでなく、グローバルな経済社会のあり方に関連するものであること。

議論のための論点：

- ・ 安倍雇用改革の特徴と歴史的な位置づけ
- ・ 雇用改革＝規制緩和の論理（理由と背景、“必然性”とその限界）
- ・ 運動の可能性と意義

1 安倍雇用改革の特徴と歴史的な位置

(1) 安倍政権の独自性と「雇用改革」の特徴

政権基盤の「安定」を基礎にした本格的な規制緩和
非正規雇用から正規雇用（「正社員」）までを含む包括的な改革構想
経済界（資本）の要求としての規制緩和

(2) 規制緩和路線の延長と本格化

90年代（80年代）からの規制緩和と小泉「構造改革」
政権交代期の「規制強化」の試み
安倍政権による規制緩和の突出（派遣法改正、ホワイトカラー・エグゼンプション、「正社員改革」、…解雇規制緩和）

(3) 資本主義の岐路と「雇用改革」の疑わしさ

リーマン・ショックと市場原理主義への信認の後退（後述）
国内における社会的矛盾の蓄積（行き過ぎた非正規化と賃金停滞、少子化）
景気政策と非正規化の推進等の政策的不整合

2 自由市場と規制の歴史

(1) 自由市場の論理と労働市場

近代社会の法原理としての形式的「自由、平等」(自由市場の論理)
階級社会(有産者の政治的権利)と生産要素としての労働(者)
形式的「契約の自由」と団結禁止法

(2) 自由市場の限界と法的・社会的規制

過剰な搾取と労働者の窮乏、労働力再生産の障害
労働運動の形成と普通選挙権の拡大
社会権と社会法(労働法と社会保障制度)の形成
→戦後の労使同権体制とケインズ主義的福祉国家
労働者の生活安定と高賃金、資本規制→国民経済の安定と成長
民主主義的政治制度と労働運動の強い発言力

(3) 市場のグローバル化とネオ・リベラリズム、規制緩和

先進各国のスタグフレーション(石油危機、過剰生産、賃金上昇、インフレ…)と資本の復権とグローバル化
ネオ・リベラリズムによる戦後体制の解体、自由市場の復権
貿易・資本の自由化による「自由なグローバル市場」の形成(グローバリゼーション)
…もう一度“自由主義”へ(ネオ・リベラリズム)
形式的な「自由、平等」(機会の平等)と「契約の自由」…法律規制、労働協約などの社会的規制の排除 = 企業・資本活動の自由、再び生産要素としての労働(者)へ
…金融ビッグバンと「金融資本主義」…より高い利潤を求めて移動する国際的資本と各国・地域の政策的自律性の後退 →国際的な規制緩和競争、租税引下げ競争
→安倍雇用改革の国際競争力論とある種の“必然性”
…資本の攻勢による労働運動の後退

(4) グローバル市場の破綻とグローバルな規制

リーマン・ショック(その他の頻発する金融危機)による自由市場への信認の後退
ネオ・リベラリズムの後退とケインズ主義の復権
国際的な金融規制の試み … G20、IMF、EU、アメリカ

… 問われている新しい世界のあり方

3 グローバルな課題としての社会的規制の再構築

(1) 社会的規制の担い手としての労働運動

各国内の伝統的労働運動の後退と活性化した国際的労働運動

—G20 と ITUC の取り組み

所得格差の拡大と新たな抵抗運動の広がり

混沌とした状況のなかでの“資本—労働”、“市場—社会”の対立構造

(2) せめぎ合う市場と規制 —大きな国・地域間の差異

グローバル化、新自由主義と「資本主義の多様性」論

対立軸としてのアメリカとヨーロッパ、各国・地域内における利害と構想の対立

グローバル化＝市場化に向かう道と社会的規制＝民主主義的制御に向かう道との分岐点

(3) グローバル市場の国際的規制とローカルな（国・地域）規制

グローバルな規制に必要な各国・地域の規制… C.f.: タックス・ヘイブン

各国・地域の規制によるグローバル市場の制約 …各国の国際資本移動の規制など

→雇用・労働市場についてもいいうる国際規制水準と各国・地域規制の連動性

… 規制緩和競争（「底辺への競争」）を阻止するための各国・地域の規制の必要性

むすび

(1) グローバルな価値を有する、「雇用改革」への抵抗

安倍雇用改革における「世界で一番ビジネスのしやすい国」＝規制緩和競争を促進

各国・地域内で人間的な雇用・労働条件を形成すること（“ディーセント・ワーク”）が資本のための国際競争を制限する道。

(2) オルタナティブの経済社会の構想

雇用や社会を良くしない「国際競争力」論 … 歯止めのない競争の論理

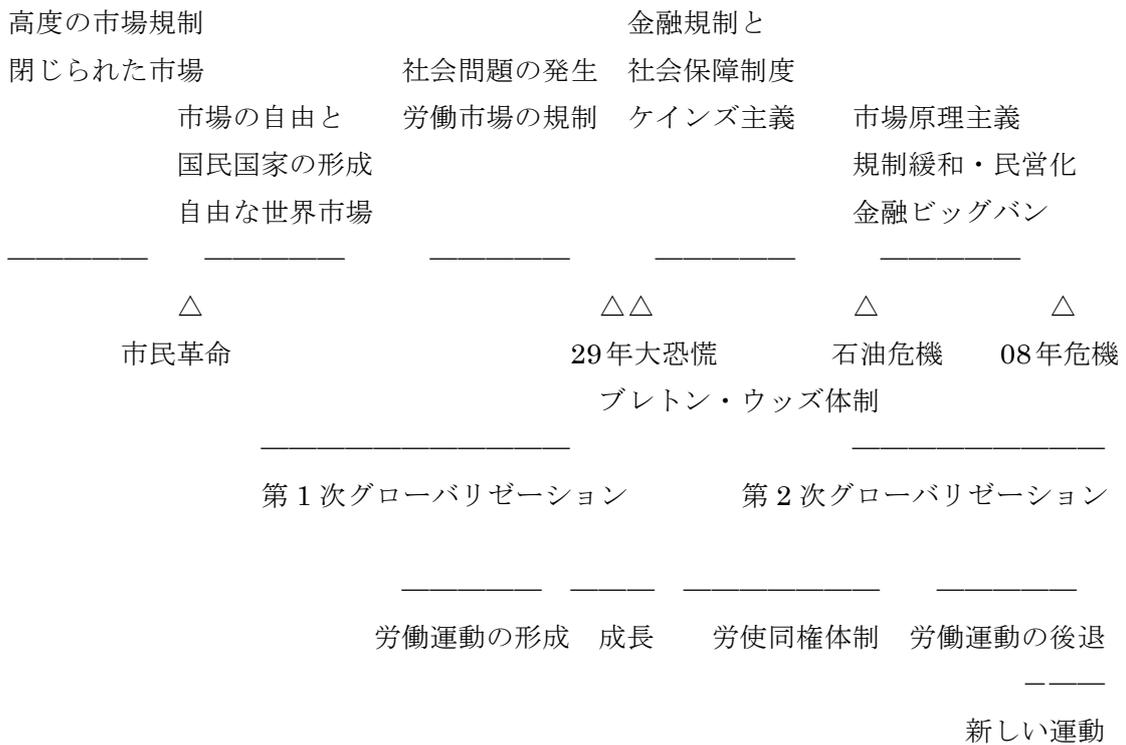
グローバル市場を制御するルールと機構の必要性

各国・地域内におけるディーセント・ワークと国際協調

(3) 運動の担い手

伝統的労働運動の刷新と幅広い“労働”、“市民”の民主主義的コンセンサス
 長期的な“社会”形成の努力

参考：自由市場と規制の長期的波動



* 各国地域で異なる自由化・市場化／規制・社会政策の度合い
 かなり大きな幅をもった世界的なトレンド